

人権について考えたこと

上頓野小学校 6年 浅生 妃波

私たちには一人一人に「人権」があります。「人権」とは、人間が幸せに生きること
を他人や国によって不当に奪われたり、傷つけられたりしないようにする権利です。

例えば、誰かが嫌がることをして相手の心や体を傷つけたり、特定の人の悪口を広
めたり、仲間はずれにしたりすることは「人権侵害」に当たります。難しい言葉なの
で自分とは無関係だと思っていました。しかし、実はすぐ身近なことで、気づかな
いうちに人を傷つけてしまい加害者になる可能性があることや、自分がその被害者に
なることもあり得るということを知りました。また、社会には不当な差別もありま
す。肌の色が違うことや外国語を話すこと、性別、障がいの有無などを理由に仲間外
れにすることも「人権侵害」に当たります。そこで私は、反対に「人権を尊重するこ
と」とはどのようなことか考えてみました。人はそれぞれであるため、見た目や話す
言葉、考え方なども一人一人違います。そこで、自分たちとの違いを否定するのでは
なく、違いを認め合うことや、これらも一人一人の個性だと受け入れることが大切だ
と考えます。

私の弟が通う幼稚園に、国籍や髪の色、肌の色や見た目、話す言葉が違う友達がい
ます。彼らは日本語をあまり話すことはできませんが、コミュニケーションをとるた
めに身振り手振りで自分の意思を伝えたり、簡単な日本語をゆっくり話したりするこ
とと一緒に遊んでいます。ふり返るとお互いを尊重し合っていたことに気づきうれし
くなりました。

人権の侵害や尊重は、私たちにとって身近なことで、相手のことを思いやり自分と
違う意見を否定せず受け入れるなど、一つ一つの積み重ねで誰もが気持ちよく過ごせ
る社会になると考えます。私も学んだことを言動で示していきます。